

1. 評価報告概要表

作成日 平成 19年 10月28日

【評価実施概要】

事業所番号	1170900524
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社
事業所名	愛の家グループホーム久喜吉羽
所在地	346-0014 埼玉県久喜市吉羽1丁目44番地8号 (電話) 0480-29-2508
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年10月22日(月)

【情報提供票より】(平成19年10月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 0人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	階建ての	階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	125,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要(10月9日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77 歳	最低	56 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡部内科小児科
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

愛の家グループホーム久喜吉羽は、最寄駅から近い、閑静な住宅地の中にある。開設約2年の施設である。ホームの中庭では洗濯物や布団干しができ、菜園が気軽に楽しめ、自由に行き来出来るよう配慮がなされている。職員は、一人ひとりの状態に応じてケアしている。それは、利用者の穏やかで明るく生き生きとした表情から何うことが出来る。また、利用者の個人の希望や思いを大切に、叶えられるような支援も行っている。地域や他施設との交流、ボランティアの受け入れ等、地域に根ざした質の高いサービスが提供できるよう、全職員が取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価について、フロア会議等で改善策について話し合い、サービスの質の向上を図っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の項目の趣旨やポイントについては会議等で話し合いが持たれ、職員全員で課題を認識し、改善に向けた策を講じている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、家族や各分野のメンバーにより組織され、定期的開催されているが、メンバー全員の参加には至っていない。運営推進会議はホームでの日々の取り組みや活動の報告だけでなく、地域の理解と支援を得るための重要な場となっている。また、会議での意見や要望、フロア会議にて改善に向けた話し合いが持たれ、サービスの質の向上に努めている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族には、毎月担当者による手紙や電話等で、ホームでの暮らしぶりを報告している。家族の訪問時等で家族に話しかけ、ホームの運営に対して意見が出せるような時間を作っている。来訪者が気軽に意見や要望が伝えられるよう、玄関に事業所宛のはがきを置くなど、来訪者の運営に反映できるよう努力している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域住民の一員として、自治会に加入し、利用者・職員共に自治会の活動に参加している。また、地域にホームの行事(納涼祭等)への参加の声かけを行い、交流の場を持っている。さらに、近隣の教育機関との連携を図り、学生ボランティアの受け入れや、認知症やグループホームの理解を深めてもらうための講演や研修を行うことにより、地域との係わりを深めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社の運営理念は、地域密着型サービスの役割を反映した理念内容となっている。また、ホーム独自の理念を作成し提示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎回の申し送り時に、理念の唱和と確認を行い、全職員が理念を共有し、理念に基づいたケアが日々行えるよう、意識統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の活動に積極的に参加し、行事等を近隣住民にも声かけをして、地域との交流をしている。また、定期的にボランティアを受け入れ、ふれあいの場を設けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	フロア会議において、職員間で評価の意義を理解し自己評価に取り組んでいる。また、前回の外部評価結果を確認し、改善に向けた検討を行い、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、地域住民等、積極的に参加してもらえよう働きかけているが、メンバーのうち一部の方は未だ参加に至っていない。活動報告や参加メンバーの意見や要望等を運営に反映させるために一つひとつ取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に、ホームの実情や取り組みの様子を伝えている。また、家族会や運営推進会議の報告も随時行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、担当者が、利用者一人ひとりの日々の様子を報告書にまとめ、ホーム新聞、金銭報告書等とともに家族に送付している。本人や家族の状況に合わせた個別の報告を丁寧に行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などで、意見を気軽に言ってもらえるような雰囲気作りを心掛けている。また、家族の訪問や運営推進会議の場で出された意見については、サービスの改善に向けて迅速に対応している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職や異動が利用者の精神的なダメージとならないよう、引継ぎの時間を十分にとり、職員の交替に伴う生活環境の変化を軽減するように努めている。利用者への不信感や大きな環境変化とならないよう時間をとり、引継ぎを正確・確実に行って利用者のダメージを最小限に抑えるよう努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部での新人研修やリーダー研修の他、社外の研修や事例検討会に参加する機会を確保している。また、研修後、研修受講生は会議での報告がなされ、働きながら技術や知識を身につける工夫をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の福祉施設との交流を持ち、活動を通じて得たものを、ケア向上の為の取り組みに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に本人や家族と面談を行ったり、見学等を受け入れている。また、家族の協力を得て、ホームの行事等に参加していただき、ホームの生活や雰囲気に徐々に慣れるよう工夫している。また、居室には、自宅で使い慣れた家具を持ち込んでもらっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者一人ひとりが、各自の得意分野(調理・家事・園芸等)の担い手となってもらえるよう配慮している。利用者と職員がいたりあう場面もあり、共に暮らし、支え合う関係となっている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の日々の状況変化に対し、アセスメントや傾聴を行うことを、職員間で共有化している。さらに、利用者の日々の様子や表情から言葉にならない思いや意向にも耳を傾ける努力をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者が生き生きと暮らせるよう、本人や家族の思いや意見を介護計画に反映させるようにしている。また、利用者の状況変化の際には、ホームと家族との話し合いを持つよう心掛けている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>本人や家族の要望を介護計画に取り入れ、3ヶ月毎に見直し、状態の変化した際には、その都度、検討や見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況・要望に応じて、必要なサービスを提供できるよう、通院介助や外出支援など柔軟な支援を行い、希望が叶えられるような支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院は、基本的に家族対応となっているが、必要に応じ、職員が対応している。また、定期的にかかりつけ医の往診が受けられる支援もしている。職員に看護師がおり、些細な事でも相談できる状況である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常の体調管理や急変時の対応については、本人・家族の意見の把握に努めている。会社としては、基本的には、ターミナルケアは、行わない方針となっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	外来者や他家族には、個人情報を漏らさないよう徹底し、また、個人記録はイニシャルにて記録し、利用者の目の届かない場所に保管している。プライバシーに関する話をする時には各居室にて行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のプログラムを定めずに、利用者のその日の体調や気分により、柔軟に対応している。個別ケアを大切に、ホーム中心のケアにならないよう、利用者の希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で収穫した作物を利用者と職員と一緒に調理したり、おやつ作りを楽しんでいる。利用者の出来る事を見極め、準備や片付け等、やってみたいと思える声かけや場面作りを心掛けている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒む利用者には、間を空けての呼び掛けや入浴したいと思えるような声かけ等、工夫している。また、入浴剤を使用し、リラックスした入浴が出来るようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の欲求を把握し、個々の潜在能力を引き出せるよう職員の働きかけをするよう心掛けている。本人が主体的となるような声掛けをしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日課として、天気の良い日には散歩等の外出をして、気分転換を図っている。また、買い物・外食・ドライブ等、様々な外出により、ストレス発散や五感の刺激が得られるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室やユニット間は開放している。玄関については、日中、事務所に職員がいる時のみ開放しているが、その他は、家族の要望により開放は見合わせている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム独自の自主点検票を確認すると共に、年2回の消防署の協力のもと、避難訓練を行っている。また、災害時の備品を完備し、地域住民に声掛けをし、協力体制を整えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立をもとに、バリエーションのあるバランスの採れた食事を提供している。毎食、チェック表にて、食事や水分量を記録し、全職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は、清潔感があり、フロアから中庭が一望でき開放的である。いたる所に季節や視覚を楽しませるような工夫もしている。また、オープンキッチンとなっているので、食事の準備段階から五感を刺激し、活力を引き出す工夫や配慮がされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人が使い慣れた家具や小物を持ち込んで頂き、安心して過ごせる為の環境作りに取り組んでいる。		